

Cisco IOS Gatekeeper を使用する ATA 186 の設定とトラブルシューティング

目次

[概要](#)

[前提条件](#)

[要件](#)

[使用するコンポーネント](#)

[表記法](#)

[ネットワーク図](#)

[ゲートキーパーを使ったATA 186 の登録](#)

[セキュリティの追加](#)

[H.323 ID を使用したゲートキーパーでのエンドポイントの認証](#)

[E.164 アドレスのゲートキーパーでエンドポイントを認証して下さい](#)

[H.323 ID の ついた ゲートキーパーおよびパスワードでエンドポイントを認証して下さい](#)

[E.164 アドレスおよびパスワードでゲートキーパーでエンドポイントを認証して下さい](#)

[H.323 ID の ついた ゲートキーパーでエンドポイントおよび区切り記号を使用してパスワードを認証して下さい](#)

[確認](#)

[トラブルシューティング](#)

[ゲートキーパーを解決して下さい](#)

[ATA 186 を解決して下さい](#)

[ATA 186 が実行するコールのデバッグ例](#)

[関連情報](#)

概要

Cisco アナログ電話アダプタ (ATA) 186 は、通常のアナログ電話と IP ベースのテレフォニー ネットワークを接続する、ハンドセットとイーサネット間のアダプタです。ATA 186 には、従来のアナログ タッチ トーン電話機をサポートできる 2 個の音声ポートがあります。ATA 186 ではこれらのポートにディジットを送出できないため、通常 Foreign Exchange Station (FXS) ポートと異なり、これらのポートは構内交換機 (PBX) と接続できません。 [この設定では、それぞれに異なる E.164 アドレスを使用して両方の音声ポートを使用できます。](#)

前提条件

要件

このドキュメントでは、読者が『[Cisco ATA 186 基本設定](#)』ドキュメントの内容をよく理解していることを前提としています。

この設定は ATA 186 が H.323 機能セットを使用してバージョン 2.0 または それ 以降で、あるように要求します。

ATA 186、ゲートウェイおよびゲートキーパー デバイス間に IP接続があることを確認して下さい。また ATA 186 がそれ以上の設定のための Webサーバ 方式によってアクセス可能であることを、確認して下さい。

使用するコンポーネント

このドキュメントの情報は、次のソフトウェアとハードウェアのバージョンに基づくものです。

- バージョン 2.12 が付いている ATA 186
- ゲートウェイとして Cisco IOS[®] ソフトウェア リリース 12.1 が付いている Cisco 3640
- ゲートキーパーとして Cisco IOS ソフトウェア リリース 12.2 の Cisco 2600

このドキュメントの情報は、特定のラボ環境にあるデバイスに基づいて作成されたものです。このドキュメントで使用するすべてのデバイスは、クリアな (デフォルト) 設定で作業を開始しています。対象のネットワークが実稼働中である場合には、どのような作業についても、その潜在的な影響について確実に理解しておく必要があります。

表記法

ドキュメント表記の詳細は、『[シスコテクニカルティップスの表記法](#)』を参照してください。

ネットワーク図

このドキュメントでは、次のネットワーク構成を使用しています。

ゲートキーパーを使ったATA 186 の登録

ゲートキーパーが付いている ATA 186 を登録するこれらの手順に従って下さい。

1. Webブラウザ アドレスか Location フィールドでは、*ip_address_of_ata* が登録している ATA 186 の IP アドレスである ATA 186 コンフィギュレーションスクリーンにアクセスするために URL `http://ip_address_of_ata/dev` をタイプして下さい。この例では、URL は `http://172.16.104.117/dev` です。Cisco ATA 186 の設定ウィンドウが表示されます。注: 下線付きのフィールドは、このシナリオに関連する設定パラメータです。IP アドレッシングは、『[Cisco ATA 186 基本設定](#)』ドキュメントで説明されているように、スタティックにもダイナミックにもできます。前の画面では、静的IP アドレスは使用されます。
2. Cisco ATA 186 コンフィギュレーションウィンドウで、これらのフィールドを設定して下さい:[UID0] と [UID1] : 音声ポート 0 および 1 の E.164 アドレスを設定します。音声ポートは両方ともポートの 1 つが使用中である場合 ATA 186 がハントできないので同じ E.164 アドレスがある場合がありません。音声ポート両方とも同じ E.164 アドレスが割り当てられる場合、コールは最初の音声ポートに常に発信されます。このポートがビジーだと、ビジー信号が発信者に送信されます。[RxCodec] と [TxCodec] : コーデック ID を設定します。G.723.1 —コーデック ID 0。G.711a —コーデック ID 1。G.711u —コーデック ID 2。G.729a —コーデック ID 3。下記に示されている設定では G.729r8 コーデックは ATA 186 とゲートウェイで使用されます。LBRCCodec —選択されたコーデックに基づいて 0 か 3 として設定。LBRC はです 0 — G.723.1 コーデックは両方の FXS ポートにいつでも利用でき

ます。各回線はノンカンファレンス状態の2つのG.723.1コールを維持できます。したがって、最大4つのG.723.1コールを1台のCisco ATA 186で維持できます。例はコールウェイティングです。LBRCはです3—G.729aは到着順に2つのFXSポートの1つに利用できます。Cisco IOSゲートウェイがデフォルトG.729コーデックで設定される場合、1つのATA 186ポートだけが使用することができます。2番目のコールを失敗から防ぐために、G.711コーデックを使用して2番目のコールをネゴシエートするためにゲートウェイの音声CODECクラスを設定して下さい。詳細な情報については、[知識コーデックのCodec Negotiation セクション](#)を参照して下さい: [複雑な状況、ハードウェアサポート、MOSおよびネゴシエーション](#) 資料。GKOrProxy—ゲートキーパーのIPアドレスを設定して下さい。これがされれば、ATA 186音声ポートからダイヤルされる何でもゲートキーパーに送信されます。

3. **Apply** ボタンをクリックし、次にページをリロードして下さい。ATA 186はそれ自身を再構成するために10秒かかります。

これらの例はCisco IOSゲートキーパーおよびゲートウェイのための関係のある構成です:

2610 ゲートキーパー
<pre>interface Ethernet0/0 ip address 172.16.13.12 255.255.255.224 half-duplex h323 interface h323 h323-id pro h323 gatekeeper ipaddr 172.16.13.12 h323 t120 bypass ! dial-peer cor custom ! ! ! ! gatekeeper zone local gk2 cisco.com 172.16.13.12 no shutdown !</pre>
3640 ゲートウェイ
<pre>interface Ethernet0/0 ip address 172.16.13.40 255.255.255.224 half-duplex ! ip classless ip route 0.0.0.0 0.0.0.0 172.16.13.33 ip http server ! ! ! voice-port 3/0/0 ! voice-port 3/0/1 ! dial-peer cor custom ! ! ! ! dial-peer voice 1 pots destination-pattern 34 port 3/0/0 ! dial-peer voice 2 pots</pre>

```
destination-pattern 45
port 3/0/1
!
dial-peer voice 100 pots
destination-pattern 1234
port 3/0/0
!
dial-peer voice 3000 voip
destination-pattern 300.
session target ras !--- Dial-peer to send the calls to
ATA. !
```

セキュリティの追加

ATA ソフトウェア リリース 2.12 現在で、このセクションのオプションはセキュリティを追加して利用できます。

H.323 ID を使用したゲートキーパーでのエンドポイントの認証

ATA 186 を H.323 ID と登録するために設定するように次の手順に従って下さい:

- 0 に AuthMethod フィールドを設定して下さい (デフォルトは 1) あります。このフィールドのために設定される 16進値は 0x0 です。
1. に UseLoginID フィールドを設定して下さい。
- ATA 186 のための H.323 ID で LoginID0 および LoginID1 を、設定して下さい。ATA 186 は 2 つの異なる H.323 端末として、各ポートのための 1 つ登録されます。

これは ATA を H.323 ID 認証方式と使用するときゲートキーパーのためのサンプル運用コンフィギュレーションです:

2610 ゲートキーパー

```
aaa authentication login default local
aaa authentication login cisco none
aaa authentication login h323 local
aaa session-id common
enable password ww
!
username atagw1 !--- Same as the LoginID0 and LoginID1
fields. username atagw2 username 3640 !--- Same as the
H.323 ID configured on the gateway. ! gatekeeper zone
local gk2 cisco.com 172.16.13.12 security any !---
Register after the H.323 ID or E.164 address is
authenticated. no shutdown !
```

E.164 アドレスのゲートキーパーでエンドポイントを認証して下さい

ATA 186 を E.164 アドレスと登録するために設定するように次の手順に従って下さい:

- 0 に AuthMethod フィールドを設定して下さい (デフォルトは 1) あります。このフィールドのために設定される 16進値は 0x0 です。
- 0 に UseLoginID フィールドを設定して下さい。ATA はゲートキーパーによって認証されるのに UID0 および UID1 フィールドを使用します。

これは ATA を E.164 ID 認証方式と使用するときゲートキーパー および ゲートウェイのためのサンプル運用コンフィギュレーションです:

2610 ゲートキーパー

```
aaa authentication login default local
aaa authentication login cisco none
aaa authentication login h323 local
aaa session-id common
enable password ww
!
username 3001 !--- Same as the UID0. username 3000 !---
Same as the UID1. ! gatekeeper zone local gk2 cisco.com
172.16.13.12 security any !--- Register after the H.323
ID or E.164 address is authenticated. no shutdown !
```

[H.323 ID の ついた ゲートキーパーおよびパスワードでエンドポイントを認証して下さい](#)

ATA 186 を H.323 ID およびパスワードで登録するために設定するように次の手順に従って下さい:

- 1 に AuthMethod フィールドを設定して下さい (デフォルトは 1) あります。このフィールドのために設定される 16進値は 0x1 です。このフィールドは ATA が今パスワードを探すことを示すために設定 されます。
- 1.に UseLoginIDフィールドを設定して下さい。
3. ATA 186 のための H.323 ID で LoginID0 および LoginID1 を、設定して下さい。ATA 186 は 2 つの異なる H.323 端末として、各ポートのための 1 つ登録されます。
4. 各ポートのためのパスワードで PWD0 および PWD1 を設定して下さい。注: ATA はトークンを生成するのにパスワードを使用します。このトークンは認証のためのゲートキーパーに送信 されます。
5. Network Time Protocol (NTP) サーバの IP アドレスの設定 NTPIP。ゲートキーパーおよび ATA は同じ NTP サーバに同期化されるクロックがなければなりません。

注: タイムスタンプはトークン生成のために使用されます。詳細については、[ゲートキーパー \(IZCT\) セキュリティトラブルシューティングガイドにゲートキーパー \(H.235\) およびゲートキーパーにゲートウェイを参照して下さい](#)。

これは ATA を H.323 ID およびパスワード認証方法と使用するときゲートキーパー および ゲートウェイのためのサンプル運用コンフィギュレーションです:

2610 ゲートキーパー

```
aaa authentication login default local
aaa authentication login cisco none
aaa authentication login h323 local
aaa session-id common
enable password ww
!
username atagw1 password cisco !--- Same as the LoginID0
and PWD0 fields. username atagw2 password cisco !---
Same as the LoginID1 and PWD1 fields. ! gatekeeper zone
local gk2 cisco.com 172.16.13.12 security token
required-for registration !--- Register after the H.323
ID or E.164 address and token is authenticated. no
shutdown !
```

注: ゲートキーパーセキュリティに関する詳細については、[ゲートキーパー \(IZCT\) セキュリティトラブルシューティングガイドにゲートキーパー \(H.235\) およびゲートキーパーにゲートウェイを参照して下さい](#)。

E.164 アドレスおよびパスワードでゲートキーパーでエンドポイントを認証して下さい

ATA 186 を E.164 ID およびパスワードと登録するために設定するように次の手順に従って下さい:

- 1 に AuthMethod フィールドを設定して下さい (デフォルトは 1) あります。このフィールドのために設定される 16進値は 0x0 です。このフィールドは ATA が今パスワードを探すことを示すために設定されます。
- 0 に UseLoginID フィールドを設定して下さい。
- ATA 186 のための E.164 ID で UID0 および UID1 を設定して下さい。ATA 186 は 2 つの異なる H.323 端末として、各ポートのための 1 つ登録されます。
- 各ポートのためのパスワードで PWD0 および PWD1 を設定して下さい。注: ATA はトークンを生成するのにパスワードを使用します。このトークンは認証のためのゲートキーパーに送信されます。
- NTP サーバの IP アドレスの設定 NTPIP。ゲートキーパーおよび ATA は同じ NTP サーバに同期化されるクロックがなければなりません。

注: タイムスタンプはトークン生成のために使用されます。詳細については、[ゲートキーパー \(IZCT\) セキュリティトラブルシューティングガイドにゲートキーパー \(H.235\) およびゲートキーパーにゲートウェイを参照して下さい](#)。

これは ATA を E.164 ID およびパスワード認証方法と使用するときゲートキーパー およびゲートウェイのためのサンプル運用コンフィギュレーションです:

2610 ゲートキーパー

```
aaa authentication login default local
aaa authentication login cisco none
aaa authentication login h323 local
aaa session-id common
enable password ww
!
username 3001 password cisco !--- Same as the UID0 and
PWD0 fields. username 3000 password cisco !--- Same as
the UID1 and PWD1 fields. ! gatekeeper zone local gk2
cisco.com 172.16.13.12 security token required-for
registration !--- Register after the H.323 ID or E.164
address and token is authenticated. no shutdown !
```

注: ゲートキーパーセキュリティに関する詳細については、[ゲートキーパー \(IZCT\) セキュリティトラブルシューティングガイドにゲートキーパー \(H.235\) およびゲートキーパーにゲートウェイを参照して下さい](#)。

H.323 ID の ついた ゲートキーパーでエンドポイントおよび区切り記号を使用してパスワードを認証して下さい

ATA 186 を H.323 ID およびパスワードで登録するために設定するように次の手順に従って下さい:

- 1 に AuthMethod フィールドを設定して下さい (デフォルトは 1) あります。このフィールドのために設定される 16進値は 0x1 です。このフィールドは ATA が今パスワードを探すことを示すために設定されます。

2. 1.に UseLoginIDフィールドを設定して下さい。
3. ATA 186 のための区切り記号およびパスワードに先行している H.323 ID で LoginID0 および LoginID1 を設定して下さい。たとえば、LoginID0 は atagw1=cisco です。ATA 186 は 2 つの異なる H.323 端末として、各ポートのための 1 つ登録されます。注: ATA はトークンを生成するのにパスワードを使用します。このトークンは認証のためのゲートキーパーに送信されます。
4. NTP サーバの IP アドレスの設定 NTPIP。ゲートキーパーおよび ATA は同じ NTP サーバに同期化されるクロックがなければなりません。

注: タイムスタンプはトークン生成のために使用されます。詳細については、[ゲートキーパー \(IZCT\) セキュリティトラブルシューティングガイドにゲートキーパー \(H.235\) およびゲートキーパーにゲートウェイ](#)を参照して下さい。

これは ATA および区切り記号を使用してパスワード認証方法を H.323 ID と使用するときゲートキーパー および ゲートウェイのためのサンプル運用コンフィギュレーションです:

2610 ゲートキーパー

```

aaa authentication login default local
aaa authentication login cisco none
aaa authentication login h323 local
aaa session-id common
enable password ww
!
username atagw1 password cisco !--- Same as the LoginID0
and PWD0 fields. username atagw2 password cisco !---
Same as the LoginID1 and PWD1 fields. ! gatekeeper zone
local gk2 cisco.com 172.16.13.12 security h323-id
security password separator = !--- Register after the
H.323 ID or E.164 address and token is authenticated. no
shutdown !

```

注: ゲートキーパーセキュリティに関する詳細については、[ゲートキーパー \(IZCT\) セキュリティトラブルシューティングガイドにゲートキーパー \(H.235\) およびゲートキーパーにゲートウェイ](#)を参照して下さい。

確認

このセクションの例はゲートキーパー エンドポイントの登録を示したものです。

設定を確認するために、**show gatekeeper endpoint** コマンドを発行して下さい。

GATEKEEPER ENDPOINT

REGISTRATION

CallSignalAddr	Port	RASSignalAddr	Port	Zone	Name	Type	Flags
172.16.13.40	1720	172.16.13.40	50923	gk2		VOIP-GW	E164-ID: 1234 H323-ID: 3640
172.16.13.43	1720	172.16.13.43	58400	gk2		VOIP-GW	H323-ID: 3660-2
172.16.104.117	1720	172.69.85.90	1719	gk2	TERM	E164-ID: 3000	172.16.104.117 1721 172.69.85.90
1739	gk2	TERM	E164-ID: 3001	Total number of active registrations=3			

注: ATA 186 は H.323 ターミナル (TERM) となない H.323 ゲートウェイとして登録されます。これは意図されている ATA 186 のための呼び出しだけそれに送られるように慎重にされます。

注: ATA Gateway フィールドのアドレスがあることができません。ゲートキーパー、またゲート

ウェイを使用するために ATA 186 を設定できません。

トラブルシューティング

このセクションでは、設定のトラブルシューティングを行うための情報について説明します。

ATA 186 はゲートキーパーに登録に成功されない場合ダイヤルトーンを提供しません。ATA 186 がゲートキーパーによって登録されない場合、これらの項目を確認して下さい：

- ATA 186 とゲートキーパーの間で存在する IP 接続。
- ATA 186 UID0 および UID1 フィールドは正しく設定されます。UID フィールドが 0 に設定される場合、ATA 186 はゲートキーパーによって登録されるように試みません。少なくとも、UID0 フィールドは登録を開始する ATA 186 の非ゼロ値、である必要があります。ATA 186 ポートに両方とも (UID0 および UID1) E.164 ゼロ以外のアドレスがある場合、ATA 186 は両方のポートと登録されるように試みます。ATA 186 はポートの 1 つが登録することができなくても、ダイヤルトーンを提供しません。
- ゲートキーパーは正しく設定されます。ゲートキーパーがローカルゾーンプレフィクスで設定される場合、ATA 186 の E.164 アドレスは含まれる必要があります。セキュリティがゲートキーパーで設定される場合、ATA 186 はそれに応じて設定する必要があります。

さらに UseSIP フィールドが 0 に設定されることを、確認して下さい。これは H.323 モードの ATA 186 を設定して必要です。UseSIP フィールドが 1 に設定される場合、ATA 186 はゲートキーパーに登録要求を送信しません。

ゲートキーパーを解決して下さい

セキュリティが設定される時、[debug aaa authentication コマンド](#)を発行して下さい。

セキュリティが設定されない場合、[debug ras コマンド](#)を発行して下さい。

注: ATA 186 は 2 つの音声ポートに別々に登録されます。従って ATA 186 はこのデバッグに示すように同様に異なる H.323 端末を、二度認証されます：

```
4w4d: AAA/AUTHEN/CONT (3800768902): continue_login (user='atagw1')
4w4d: AAA/AUTHEN (3800768902): status = GETPASS
4w4d: AAA/AUTHEN/CONT (3800768902): Method=LOCAL
4w4d: AAA/AUTHEN (3800768902): status = PASS
4w4d: AAA: parse name=<no string> idb type=-1 tty=-1
4w4d: AAA/MEMORY: create_user (0x83149EFC) user='atagw2'ruser='NULL' port='NULL'
rem_addr='NULL' authen_type=ASCII service=LOGIN priv=0 initial_task_id='0'
4w4d: AAA/AUTHEN/START (294225678): port='' list='h323' action=LOGIN service=LOGIN
4w4d: AAA/AUTHEN/START (294225678): found list h323
4w4d: AAA/AUTHEN/START (294225678): Method=LOCAL
4w4d: AAA/AUTHEN (294225678): status = GETPASS
4w4d: AAA/H323: Password:
4w4d: AAA/AUTHEN/CONT (294225678): continue_login (user='atagw2')
4w4d: AAA/AUTHEN (294225678): status = GETPASS
4w4d: AAA/AUTHEN/CONT (294225678): Method=LOCAL
4w4d: AAA/AUTHEN (294225678): status = PASS
4w4d: AAA: parse name=<no string> idb type=-1 tty=-1
4w4d: AAA/MEMORY: create_user (0x831910C0) user='3660' ruser='NULL' port='NULL'
rem_addr='NULL' authen_type=ASCII service=LOGIN priv=0 initial_task_id='0'
```

より多くのトラブルシューティング例に関しては、[トラブルシューティング ゲートキーパーの登録問題を参照して下さい](#)。

[ATA 186 を解決して下さい](#)

サードパーティゲートキーパーおよびゲートウェイを使用しているとき、ATA 186 のトラブルシューティング ツールは非常に有用です。ATA 186 トラブルシューティング ツールを使用可能にするために、次の手順に従って下さい:

1. ATANprintf フィールドでは、ATA 186 として同じ サブネットにある PC の IP アドレスを設定して下さい。
2. そのアドレスの後に指定するポートは、9001 である必要があります。
3. PC の DOS プロンプトで、**preserv.exe** プログラムを発行して下さい。

[CiscoSoftware センター \(registeredcustomers だけ \)](#) から preserv.exe プログラムをダウンロードできます。

preserv.exe プログラムは最新の ATA 186 ソフトウェア リリース ZIP ファイルに含まれています。

[ATA 186 が実行するコールのデバッグ例](#)

```
D:\Documents and Settings\sshafiqu\My Documents\voice\ata>prserv.exe GK<-1: KPA-RRQ:300 sec GK-
>1: RCF:TTL 300 !--- ATA was reset after the gatekeeper configuration was added. WStop:0 Wed Feb
06 19:06:54 2002 Hello from 171.69.85.90(0) Build 1109a: v2.12 ata186 Successfully Registered
with the Gatekeeper GK zone<gk2>172.16.13.12: 3000 GK zone:gk2 0x13e138 delayed RRQ: 48 ticks:
300 GK zone<gk2>172.16.13.12: 3001 GK zone:gk2 0x141e58 delayed RRQ: 56 ticks: 300 BMK : gk2
GK<-1: KPA-RRQ:300 sec BMK : gk2 GK<-0: KPA-RRQ:300 sec GK->1: RCF:TTL 300 GK->0: RCF:TTL 300
SCC->(0 0) <cmd 0> 3000 active @0xab45555a (GK @0xac100d0c) !--- Call made from voice port 0.
[0]DTMF 1 [0]DTMF 2 [0]DTMF 3 [0]DTMF 4 [0]DTMF # Calling 1234 SCC->(0 0) <cmd 16> CLIP\ \SCC-
>(0 0) <cmd 2> \<0 0> dial<1234> GK<-0: ARQ: 0 GK->0: ACF:0:direct call IRR in 240 sec
CallRasCallBack: 1 33e15eb 33e206b 33e39b0 Connect to <0xac100d28 1720>.. >>>>>>> TX CALLER ID
: 0x1 0x80 6 Q931<-0:Setup:CRV 25006 Q931->0:Proceeding Connect H245... H245 TCP conn ac100d28
11006 CESE/MSDSE start:<0 0 0 0> capSize = 3 H245->0:Cese RemoteInputCap <15 5> RemoteInputCap
<15 4> RemoteInputCap <15 1> RemoteInputCap <4 11> MODE FRAME : 11 2 RemoteAudioCap <4 10>
Capability set accepted H245->0:MSD: <rn tt> = <0x269c 60> H245->0:CeseAck H245->0:MsdAck h323.c
1837: cstate : 3 ->H245<0> OLC H245<-0:LcseOpen set TX audio to G729/G729A 2 fpp SetG723Mode: 2
0 H245->0:LcseOpen H245->0:OLC mode 10 remote OpenLogicalReq G711/G729(10) : 2 fpp
OpenRtpRxPort(0,0x0,4000):14 RTP Rx Init: 0, 0 RTP->0:<0xab45555a 4000> H245->0:LcseOpenAck
RTP<-0:<0xac100d28 17304> [0]Enable encoder 18 RTP TX[0]:SSRC_ID = 4af964c0 RTP Tx Init: 0, 0
[0]DPKT 1st: 861812319 861812079, pt 18 Enable LEC adapt [0]=1 H323Dispatcher : 3 3 [0]Received
pi=8 in q931 Q931->0:Progress Q931->0:Connect SCC:ev=12[0:0] 3 0 Q931->0:ReleaseComplete: reason
16, tone = 13 H245<-0:EndSessionCmd 1 0: Close RTPRX write TCP err : 13 -33 [0:0]Rel LBRC Res
Q931<-*:ReleaseComplete !--- ATA side hangs up the call. write TCP err : 12 -33 GK<-0: DRQ:0 !---
- Disconnect request sent by ATA. SCC:ev=13[0:0] 4 0 [0:0]SCC: Disconnected GK->0: DCF !---
Disconnect confirm received. SCC->(0 0) <cmd 1> [0]MPT mode 0
```

[ダイヤルトーンなし ATA デバッグ例](#)

音声ポートは両方ともユニークな E.164 アドレスを必要とします、他では ATA はゲートキーパーからリジェクトを受け取ります。この時間の間に、ATA 186 を H.323 ターミナルとして一斉に登録されていたポートであることを見ますダイヤルトーンなしがあります。

```
K<-0: GRQ
BMK : gk2
GK->0: GCF:GK@0xac100d0c-1719
BMK : gk2
Secured RRQ
GK<-0: RRQ
GK->0:RRJ: reason 4
```

関連情報

- [Cisco ATA 186 基本設定](#)
- [Cisco IOS ゲートウェイを使用するの ATA 186 の設定とトラブルシューティング](#)
- [Cisco 高性能ゲートキーパー-ゲートキーパーの設定](#)
- [Voice over IP の設定](#)
- [音声に関する技術サポート](#)
- [音声とユニファイド コミュニケーションに関する製品サポート](#)
- [Cisco IP Telephony のトラブルシューティング](#)
- [テクニカルサポートとドキュメント - Cisco Systems](#)